

# エゾアワビ稚貝の生き残り と 冬季水温 と の 関係

○ 武蔵達也・遠藤敬 (岩手県水産技術センター)

キーワード: エゾアワビ・稚貝・生残・水温

## 【はじめに】

これまでに、エゾアワビ (以下アワビと記す) 満1 齢貝の出現量は冬季水温 (1~2 月平均水温) の高低によって変動することを報告している。また、当歳貝 (9~10 月に生まれてはじめて冬季をむかえる貝) の生き残りは、冬季水温の低下と波浪等が影響していることが示唆されている。

今回、これらの結果に最近のデータを追加し、現況を考察したので紹介する。

## 【方法】

1982 年~2004 年の冬季水温の観測結果と 1983 年~2004 年の満1 齢貝出現量 (10 月確認) の関係を単回帰分析で解析した。なお、満1 齢貝出現量は、1983 年以降本県のアワビ資源動向把握調査資料 (10 月実施) を用い、冬季水温は同海域の日観測結果を月平均にまとめて用いた。

## 【結果】

### 1 水温について

1982 年~2004 年では、1984 年、1985 年、1986 年、1989 年そして 1996 年は、冬季水温が例年より 1~2℃低めに経過した。これは、親潮第1 分枝が沿岸に接近又は接岸した年であった。

1990 年代は総じて冬季水温は例年より 1~2℃高く推移しており、親潮第1 分枝の影響は少ない年であった。

### 2 アワビ満1 齢貝の出現量

1984 年から 1989 年までは、満1 齢貝の出現量は非常に少なく、一方、1990 年からは徐々に増加し、1997 年以降は、殻長組成に明確な年級として読みとることができた。

満1 齢貝の出現量は、前述した冬季水温が低めに経過した年は少なく、冬季水温が高めに経過した年は多くみられ、本県のこれまでの報告事例 (当歳貝の生き残りには冬季水温の動向が影響する) を裏付けている。

また、最近の研究では、満1 齢貝と前年の親貝 (殻長 70mm 以上) の出現量の関係が深いことがわかった。

### 3 まとめ

- ① アワビ資源を左右する当歳貝の生き残りは、冬季水温の動向が影響すると考えられる。
- ② 1990 年からは、冬季水温が高めに経過しており、当歳貝の生き残りには良好な環境となっている。
- ③ 満1 齢貝の出現量は多くなってきてはいるが、近年の生産量の増加には結びついていない。
- ④ このことは、餌料となるコンブの生育量は年々減少傾向が続いており、餌料不足が推測される。

## 【おわりに】

岩手県のアワビ生産量は、かつて 1,000 トン/年以上あったが、1980 年代には急激に減少し 1989 年には 200 トン/年以下となった。この生産量の低下は、親潮第1 分枝の接岸による冬季水温低下が当歳貝の生き残りを悪くし、その結果、当歳貝個体数の急激な減少をまねき 4、5 年後の漁獲対象アワビ資源量が減少したためと推測される。一方、最近では、冬季水温が高めに経過しており、当歳貝の生き残りには良好な環境となっている。

アワビ資源の増大を図るには、資源添加量の増大 (個体数の増加) とそれを育成する餌料環境の整備が必要不可欠である。しかしながら、コンブの生育は自然環境に依存しているのが現状である。今後、餌料対策が重要なポイントとなるであろう。